

かぜのきざし

2014 DECEMBER

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 028 号

2014 年 12 月 15 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

リレー寄稿

アジア国際交流事業の提案

今号より、会長、事務局長をはじめとしたコアメンバーの方々に、「今」行っている事、「今」思っている事などについての原稿をお願いすることにいたしました。内容については特に指定をしておりませんが、会の活動に関わる部分もあると期待しております。今後、順次リレー形式で掲載していきいたいと考えております。

会長
苛原 実



現在、わが国では高齢人口の増加に伴い深刻な介護職不足となっており、2025年までに約100万人の介護職不足が予想される状況のなか、技能実習制度による介護分野の実習生受け入れについてもすでに議論が始まっております。また、初任者研修より短時間で習得できる新しい介護職育成制度の検討も始まりました。

また、海外からの方を受け入れる試みは多くの団体で行われておりますが、劣悪な労働条件や住環境であったり、受け入れの際に高い手数料を請求されるなどしたり、必ずしも順調な状況ではありません。

今回の事業は、フィリピン南カマリネス州政府との合同事業であり、州当局も良心的なNPO団体との合同事業により、良好な労働環境や学習の機会を得ることができると期待しています。

次回には、**事務局長**にお願ひしております。

目的は、フィリピンでの看護資格を持つ方を、日本の介護現場に受け入れることにより、国際交流と日本の介護技術のアジアへの発信につなげることで、アジアの医療・介護技術向上をめざすものです。

わが国の高齢者介護をどのように支えて行くのかという観点からも、在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワークとしても将来を見据えた事業になり得ると考えます。

※ 南カマリネス州では以上の内容を州の雇用施策の事業としており、Japanese Language and Cultural Center (JLCC) を設立・運用し、日本での教育を希望する者への支援として日本語教育や合わせて日本への留学希望者の募集、推薦を行っております。

2015年3月19日から22日まで同地を訪問して視察予定。州知事との面談も予定しています。

募集概要

募集人数：一施設2名～4名程度

(フィリピンの現状)

フィリピン南カマリネス州ナガ市には看護師を養成する大学がありますが、卒業後フィリピン国内の医療機関就職は難しく、看護師資格維持のためにボランティアで看護師としての業務をしながら他の仕事で生計を立てている者が多くいます。また、その中には日本で働きながら日本語の習得をして、その後の雇用の幅を広げたいと希望する優秀で若い人材も少なくありません。本年度の例ですと、4名の募集に対して、100名以上の応募がありました。

(受け入れ方法)

日本語・日本文化の取得を希望するフィリピン看護師資格を持つ者に対して、日本語学校への入学し勉強することと、生活の支援として働く場所（就労時間は週28時間）と住まいの提供をする。就学ビザでの来日となります。

(費用負担)

- ① フィリピンから日本への渡航費用 (60,000 円程度)
- ② 日本語学校の費用 (月 55,000 円程度)
- ③ 住まいの提供
- ④ 就労に対する労働対価 (月 10 万円程度)
- ⑤ 事務所経費 (30,000 円程度) 初年度のみ 年間 200 万円程度

(受け入れのメリット)

- ① 日本語学校が2年間のため、最短でも2年間の人材の確保はされる (週28時間勤務可)
- ② 外国人を受け入れることによる職場の活性化が図れる
- ③ 希望者の中には、日系人や日本国籍をもった者もいます (日系人や日本国籍の場合は週28時間の就労時間制限がありません)



「第 20 回全国の集い in 岡山 2014」 優秀賞・フォローアップ対象発表が選定されました。

「全国の集い in 岡山 2014」において 1 日目の午後に行われた実践交流会において発表された「カテゴリー別優秀賞」及び「フォローアップ対象発表」を改めて紹介します。

どちらも各カテゴリーの座長の推薦によるもので、終了直後に発表され「優秀賞」は夕方からの懇親会において青木大会長より表彰状が渡されました。

NPO の HP の会員専用ページに発表したパワーポイントを公開しています。ぜひ是非ご覧ください。

岡山大会 実践交流会 優秀発表

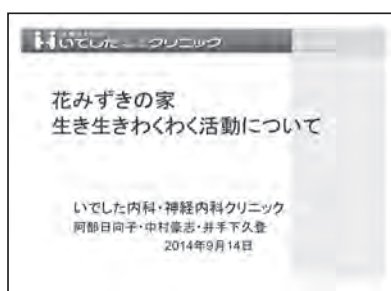
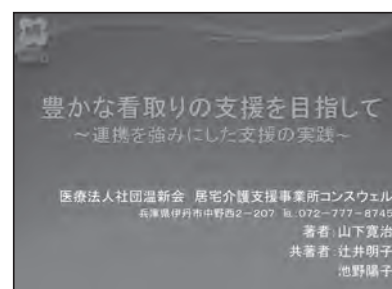
実践交流会 1 緩和ケアと看取り C01-8

豊かな看取りの支援を目指して
～連携を強みにした支援の実践～

医療法人社団温新会 居宅介護支援事業所コンスウェル
山下 寛治

看取り実践交流会は全発表者に優秀賞をあげたいぐらいすばらしかったとまず報告したいと思います。

今度の看取りに医師看護師以外に介護の人の発表があったこと、さらに CM(ケアマネ)の発表があったことが大変よかったと思います。看護に伴ってあるいは 1 人で何度も利用者さんのもとへ訪れ(訪問)その苦しみや苦しみの中の希望をきかれ利用者さんのニーズを把握されて在宅看取りされたことはすばらしい発表でありました。又グリーフケアまでかわりをされたことはすばらしい報告でした。



実践交流会 2 訪問&通所サービス C02-6

「花みずきの家生き生きわくわく活動」について

医療法人社団 いでした内科・神経内科クリニック
阿部 日向子

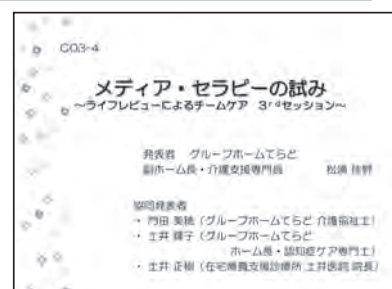
在宅生活を続けるために必要な身体及び意欲の維持向上に対し、新しい取り組みができており、目的、方法、考察が正しく行なわれている。今回の主旨にも沿っていると考えられる。発表も解りやすく落ち着いて話ができていた。

実践交流会 3 認知症 C03-4

メディア・セラピーの試み
～ライフレビューによるチームケア 3rd セッション～

介護保険サービス事業所 てらど
松浦 佳野

膨大な思い出の映像を家族とともに収集・整理し、人生を巡るストーリーを元にして本人と家族、そしてスタッフとの信頼関係を築くという素晴らしい取り組みを発表された。その大変な努力を評価したい。



実践交流会 4 口腔ケアと栄養管理 C04-5

「食べたい!」「飲みたい!」「帰りたい!」
～経口摂取完全移行による、在宅復帰への道のり～

特定医療法人フェニックス 老人保健施設サンバレーかかみ野
久野 治美

施設から在宅へと多職種で連携して効果をあげている。今後、在宅での支援の成果をあげていただきたい。



実践交流会5 薬と生活 C05-4

残薬確認の呼びかけとその成果について

有限会社あんのメディカル おごおり薬局長

廣 梓

残薬の問題に関しては社会的な問題と本人の健康問題に大きく関与している。他職種を含め残薬への取り組みを行った事例の報告であり今後の課題への提言を挙げられたため。又このセッションの意見交換の充実につながった。

残薬確認の呼びかけとその成果について

有限会社あんのメディカル
おごおり薬局
廣 梓C06-6 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第20回全国集いin岡山2014互助から生まれる
支え合いの自立支援へ

ICFの視点から自助と互助の可能性を探る

地域の高齢者自らがつくり出す「互助」の環境に参加する。お互い様の仲間に支えられ、高齢者の「自助」が高まる可能性をICFの視点から考察する。

発表者：NPO法人 ゆいの里
コミュニティ・ケアマネジャー
飯島 恵子

抄録集より

実践交流会6 地域包括ケア C06-6

互助から生まれる支え合いの自立支援へ
ICFの視点から自助と互助の可能性を探るNPO法人 ゆいの里
飯島 恵子

自助・互助を共助が補完することが自立支援を促していくそのためのリーダー養成と経営意識の考察が大切である。9月11日付の産経新聞にも制度改革の先駆事例としてとりあげられている。地域包括ケアへの住民参加の視点が大切なことについての発表。

実践交流会7 在宅生活の継続 C07-8

あなたは「自立支援」をどう捉えていますか
～「『自立支援』の実態、イメージ調査」をおこなって～

森本外科・脳神経外科医院

田中 大造

データの整理が正確に出来ている事。「自立支援」について体系的にまとめている事。

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第20回全国集いin岡山2014あなたは「自立支援」を
どう捉えていますか

～「『自立支援』の実態、イメージ調査」をおこなって～

平成26年9月14日刊
森本外科・脳神経外科医院
田中大造C08-3 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第20回全国集いin岡山2014

地域に根ざした施設

大村市と福祉介護避難所の開設・運営に関する協定を締結しました。これまでの当該施設の地域における取組を報告します。 2014.9.14

発表者：リハビリセンター大村
大道洋平

抄録集より

実践交流会8 新しい試み C08-3

豊かな看取りの支援を目指して ～連携を強みにした支援の実践～
地域に根ざした施設

医療法人みどりグループ リハビリセンター大村

大道 洋平

施設内だけでなく地域の困った方への受け入れもなされている。大村市と協定を締結し視野の広い活動を行っている。覚書締結に対する福祉介護避難所の開設・運営への先進的な取り組みはすばらしい。

実践交流会9 多職種情報共有 C09-7

地域医療における多職種共同の理想形とは
～メカニカルドックを目指して～

特定医療法人フェニックス 鶴沼中央クリニック

大澤 邦章

多職種情報共有に対し発表目的が明確で、発表内容がそれに沿って適切であった。[地域のメカニカルドック]を目指すとの主張は斬新で独創的であった。この発表が今後のケアのあり方について地域社会に対し効果があると考えられた。(多職種連携で)地域サービスの向上が図られる。発表においてわかりやすく、熱意的な態度であった。今後の課題についても明確にしていた。

地域医療における
多職種共働の理想形とは
～メカニカルドックを目指して～特定医療法人フェニックス 鶴沼中央クリニック
大澤邦章 次郎 敬希
医師 看護師

岡山大会 実践交流会「フォローアップ(継続)推薦演題」発表

実践交流会において、各カテゴリーの座長より、次回の北海道大会でも是非継続して発表していただきたいと「フォローアップ（継続）の推薦」を受けられた皆様です。

演題	座長による推薦コメント	演題	座長による推薦コメント
実践交流会 1 緩和ケアと看取り C01-13 グループホームを看取りの場へ 社会福祉法人幸済会 高齢者グループホーム かわしまの里 林 光政	医療行為がしにくい介護士が今後医療行為を学びながら GH の看取りを生活支援とともにやっていくことを継続的に経験を積みあげていただき、来年の発表につなげていただきたい。	実践交流会 4 口腔ケアと栄養管理 C04-3 家族指導とチームアプローチ ～『口から食べる』を管理する～ 医療法人 あいち診療会 野津 清	具体的事例展開と先生のチームアプローチの方法とタイアップして発表していただきたい。
実践交流会 2 訪問&通所サービス C02-1 介護保険改正による通所サービスへの影響を見据えた今後の取り組み ～要支援者の地域支援事業移行に伴う～ 特定医療法人 フェニックス デイサービス Com.Do2 伊藤 京香	利用者がボランティアに交わりクラブ活動をすすめていく事で意欲や自律度が向上していく。市をまきこんだ新しい取り組みも期待される。	実践交流会 4 口腔ケアと栄養管理 C04-5 「食べたい!」「飲みたい!」「帰りたい!」～経口摂取完全移行による、在宅復帰への道のり～ 特定医療法人フェニックス 老人保健施設サンパレーかかみ野 久野 治美	在宅へもどられたかたの支援の状況を次年度に発表していただきたい。
実践交流会 2 訪問&通所サービス C02-2 短時間型のリハビリ特化型 通所サービスの傾向 医療法人社団 青藍会 あんの循環器内科デイケア 吉川 宗佑	短時間通所リハビリの活動・運営に色々な取り組みがなされている。制度が変わってからどうなっていくのか知りたい。	実践交流会 5 薬と生活 C05-3 多職種からみた服薬状況の実態 ～より良い服薬支援をめざして～ うおぬま調剤グループ 服薬支援プロジェクトチーム 斎木 和仁	多職種の服薬問題アンケートによって問題点が浮き出してきた。今後これらをどう対応していくのか解決に向けていくのか継続していただきたい。
実践交流会 2 訪問&通所サービス C02-4 地域包括ケアにおけるデイケア天音の里での取り組み - 最期まで在宅で寄り添うために - 医療法人社団 崇仁会船戸クリニック 在宅リハビリセンター 天音の里 松久 宗丙	対応困難な重症例に対し、リハビリを行うことは多職種の協働が必要であり、今後が期待される。	実践交流会 6 地域包括ケア C06-2 個々の視点に合わせた包括的プログラムによる支援 NPO 法人 日本総合リハビリスト協会 重信 麻子	ADL の向上に向けて運動、口腔、栄養の視点から取り組みは素晴らしい。次回は水分量も入れて研究してみてください。水分は生命の源、水分が入ると、身体の活動性があります。
実践交流会 3 認知症 C03-4 メディア・セラピーの試み - ライフレビューによるチームケア 3rd セッション - 介護保険サービス事業所 てらど 松浦 佳野	セッション前の準備段階が大切であることに質疑応答の中で気付いたと思います。今回はそこをふくらませた発表を期待しています。	実践交流会 7 在宅生活の継続 C07-9 在宅医療に携わる言語聴覚士の必要性和その可能性～1人の患者を通して～ 医療法人 あいち診療会 あいち診療所 野並リハビリテーション科 大竹 功剛	難病の在宅療養のなかで ST の専門性を発揮し、患者さんの笑顔になったその後の経過を追いたい。
実践交流会 3 認知症 C03-11 アロマセラピーの応用 ～在宅緩和ケアから認知症ケアまで～ 医療法人 あづま会 大井戸診療所 訪問看護 膳 澄美	アロマセラピーの認知症ケアに応用した症例をふやし、その人たちの認知機能等の変化をみてみたい。	実践交流会 8 新しい試み C08-6 虐待共通通報番号 113 に関する台湾視察 医療法人社団 実幸会 いらはら診療所 和田 忠志	虐待通報システムの重要性について啓発された。今後我が国でも是非整備されるべきシステムであり、当 NPO や各団体からの働きかけの成果を期待したい。
実践交流会 3 認知症 C03-13 水分摂取量の増加への取り組み 社会福祉法人 青藍会 ハートハウス白石脳活性リハビリ 宇佐川 由美	竹内理論に基づく水分摂取を増やすための工夫をさらに深めていただきたい。	実践交流会 8 新しい試み C08-11 運動補助具を使用した当院における職員の腰痛予防の取り組み 医療法人 孝生会 津森医院 リハビリテーション科 藤木 康孝	医療介護従事者の腰痛対策は重要であり今後の予防活動にも期待したい。
実践交流会 3 認知症 C03-18 問題解決型から目標指向型への視点の転換により BPSD は軽減した事例について ～「幸せの形実現」にむけた取り組み～ 医療法人 あすか 短期入所生活介護 ショートステイみどり 志水 達彦	同時志向型アプローチ「幸せの形」実現に向けた取り組みを会社で続けて欲しい。	実践交流会 9 多職種情報共有 C09-2 地域医療連携支援システムの利用実態とその課題 医療法人社団 プラタナス 桜新町アーバンクリニック 北山 摂	地域医療連携システムを利用する事で連携事業間で閲覧可能な情報共有の実現を目指した ICT による情報連携システムの構築を引き続き実践してその利便性と問題点について検討を加えて頂きたい。

厚生労働省担当との 意見交換会報告

昨年度より始められた厚生労働省との意見交換会も今回で4回目となりました。
当日の参加メンバー

厚生労働省 より

政策統括官付 社会保障担当参事官室 室長補佐	山下 護 様
政策統括官付 社会保障担当参事官室 室長補佐	荻原和宏 様
保険局医療課 課長補佐	奥山晃正 様

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク より

会長	苛原 実
副会長	藤村淳子
事務局長	畑 恒土
第 21 回全国の集い in 鹿児島 2015 副大会長	加倉秀章
東京事務局責任者	吉永隆行

この意見交換会は医療・介護の実情を「現場」から伝えることにより、今後の診療・介護報酬決定等の施策に対し、より有効に反映できるようにとの思いで企画されているものです。

当ネットワークとしては、会員の日常の活動を通じの疑問、提案等を直接伝えることを目的として望んでいます。

そのような「現場の声」が診療・介護報酬をはじめとした厚労省の各施策に対し、より多くの声が反映されるべくこのような機会を多く設けたい思いで始めたこの会も4回目を迎えることができました。

前3回までと同様、非常に実質的な意見交換ができた会となりました。

この4回を通じ、基本的に会長をはじめコアメンバーが参加。対応をしておりますが、ここに会員の皆様からの「現場の声」を募集してこの意見交換会の場を通じて厚労省側に伝えたいということを考えております。

これまでも当会の事業活動の一つであった「制度に対する現場からの提案」に沿った内容の募集となります。全てが紹介できない場合もあると思われますが、できる限りホームページ、メルマガ、会報「風の萌」等で取り上げ、お伝えする事も企画しておりますので、どしどしご意見いただきたく存じます。

ご意見募集

募集タイトル	「制度に対する現場からの提案・要望」
内容について	会員の皆様が日常行っている業務を通じ、感じている現行制度に対する意見、提案、希望等を 400 字から 1,000 字程度にまとめた文書、及びそれを補足する画像等のデジタルデータ (制限は設けませんが、まとめて A4 1 枚から 3 枚程度で集約できること)
意見送付先	名古屋事務局もしくは畑事務局長まで
締め切り	特に設けませんが、意見交換会の次の日程はまだ決定されておりませんが、ホームページ、メルマガ、風の萌 等で順次取り上げるつもりです。

但し、あまり間延びしないように半年間程度の期限は取り敢えず設けたいと考えますので、目安として「来年6月まで」でお願いしたいと存じます。

全国大会シンポジウム、プレ大会の記録を公開

会員専用ページに新しいコンテンツを追加しました。

ホームページ活性化に向けての新しい取り組み。

皆様には、もうご覧になった方もいらっしゃると思いますが、会員専用ページに新しい項目が追加されました。

・2013年度活動報告書

2011、2012年度に続き2013年度の活動報告書をアップしました。

・全国大会シンポジウム

実践交流会以外の岡山大会で行われたシンポジウムです。抄録集から抜粋しています。

・プレ大会の記録

2014年度に行われたプレ大会の報告書です。

・実践交流会アーカイブ

2014年度岡山大会実

践交流会の報告をアーカイブに追加しました。

実践交流会は、プルダウリストから大会とカテゴリーで内容を抽出出来ます。

興味あるカテゴリーを選択して、リンクをクリックして下さい。

実践交流会で発表したパワーポイントを見る事が出来ます。

東京事務局ではホームページの活性化を推進する為に様々な企画を考えています。

これからは、ホームページからのリンクを中心に整備を進めて行く予定です。会員の皆様も要望がございましたら、是非とも東京事務局までご連絡下さい。



東京事務局
〒112-0014
東京都文京区関口1丁目19番6号
弥助ビル5階
TEL 03-3235-7906
FAX 03-3235-4880

発売以来10年、使用者の60%が年配の方。
こころのなぐさめに活躍する赤ちゃんサイズのおしゃべりする抱き人形です。

夢の子ミルル 夢の子ユメル 夢の子ネルル

季節や
時間に合わせて
おしゃべり

各9,500円(税抜)

TAKARA TOMY A.R.T.S

株式会社 タカラトミーアーツ TEL.03-5650-4901 www.takaratomy-arts.co.jp 「価格」は、すべてメーカー希望小売価格(税抜)です。 タカラトミーグループ



『Care Do 北海道』と「ウイ
ベント名を持ったこの会は、「講
演・シンポジウム」という通常
の流れとは異なり、「現場に携
わる仲間同士」が集まり・交流
し・輪を広げるという現場主導

ベントとは異なるが、会場全体に流れる雰囲気は正に現場レベルの交流会・仲間増やしイベントそのものであった。

『北海道』という地域ならではの雰囲気があり、来年の『全国集いin北海道』へ通じる流れが期待できるものを大いに感ずることができた、そんな会であつた。



理事会報告

理事会報告(2014年度 第1回)

去る11月24日に行われた理事会報告です。
紙面の関係で詳細は報告できませんがご容赦願います。

開催日: 2014年11月24日(10:00~12:40)

場所: 名城大学 名駅サテライト

出席理事: 苛原実、長縄伸幸、藤村淳子、大澤誠、畑恒土、石田一美、桑原由次、吉永隆行、岡崎和佳子、村山善紀、井村隆、長純一、森本益雄、金井秀樹、上村伯人、萩田均司、大川延也

欠席理事: 宮坂圭一、多湖光宗、渋谷温之、太田秀樹、新田國夫、西嶋公子、永井康徳、草場鉄周、黒岩卓夫、中嶋啓子、金田弘子、福田善晴、青木佳之、吉井敦子、小林るつ子

(いずれも敬称略)

(主な報告・検討事項)

- フォローアップについて
- HPにおけるリンクについて
- 大会アンケートについて
- 北海道大会プレ大会の報告
- 鹿児島大会準備のための会議について
- 会員の個人情報の取扱について 等

活動予定

第2回理事会 平成27年2月22日(日) 場所…東京	東京プレ大会 平成27年2月21日(土) 場所…東京青山 こどもの城	第3回理事会 平成27年5月24日(日) 場所…東京
第4回理事会 平成27年8月23日(月) 場所…名古屋		

*平成27年に北海道にて、北海道プレ大会を3回予定しております。日時等の詳細は未定です。

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第21回全国の集い IN 北海道 2015 東京プレ大会

『地域包括ケアを支えるテクノエイド』

日時: 平成27年2月21日(土)

会場: 東京青山 こどもの城

内容: ●基調講演

講師: 大橋 謙策 氏(日本テクノエイド協会 会長)
(座長) 小林 るつ子氏(玩具福祉学会 理事長)
演題: 『地域包括ケアを支えるテクノエイド』

●シンポジウム

テーマ: 『地域包括ケアを支えるテクノエイド』
司会: 苛原 実氏(医療法人 社団実幸会 理事長)
シンポジスト: 小林 るつ子氏(玩具福祉学会 理事長)
堂垂 伸治 氏(どうたれ内科診療所 院長)
和田 忠志 氏(いらはら診療所在宅医療 部長)

風の萌

2014年12月15日発行(第028号)

頒 価: 1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市長区簗山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

2009年から東京事務局の業務に携わり、事務処理や大会の準備のお手伝いをさせて頂いておりましたが、この度、東京事務局を離れることとなりました。あつという間の5年間でした。今までお世話になった会の関係者の皆様、誠に有難うございました。

(東京事務局/佐伯等々力)